

徳島県教育委員会は、徳島県文化財保護審議会の答申に基づき、次の文化財を指定することを決定した。

(指定された文化財)

種別	名称	員数	所在地	所有者及び管理者
無形民俗文化財	宅宮神社の神踊り	—	徳島県徳島市上八万町上中筋558番地	宅宮神社の神踊り保存会
有形文化財 (考古資料)	観音寺・敷地遺跡木簡と官衙関連出土品	一括 (500点)	徳島県板野郡板野町犬伏字平山86番2	徳島県 徳島県立埋蔵文化財総合センター

概要

【宅宮神社の神踊り】

「神踊り」の名称は徳島県独特のものであり、太鼓を打ち、小歌を歌い、笠を被って盆や祭礼等に踊る踊り風流を総称して「神踊り」と呼んでいる。

「宅宮神社の神踊り」は、現在は毎年8月15日に実施されており、午前中に当家地区の氏神で踊りを奉納し、午後は宅宮神社にて奉納する。その形態は境内の中央に神籬を立て、その下に2人ないし4人の子どもが向かい合って太鼓を打つ。踊り手は皆笠を被り、その外側に円陣を組み、8種類程度の小歌に合わせて踊るといった徳島県で踊られる「神踊り」の特徴を完備している。

これらは「馬組」と呼ばれる地域共同体を単位として、11の馬組が毎年輪番で行うことにより、地域全体で祭礼を支えており、踊り風流としての完全な形を継承している。

【観音寺・敷地遺跡木簡と官衙関連出土品 500点】

徳島市国府町の観音寺遺跡・敷地遺跡は、古墳時代から中世にかけての複合遺跡であり、阿波国府推定地に位置し、国司館跡と考えられる掘立柱建物や井戸が検出されている。

出土品は木簡や木製品、墨書土器や刻書土器、金属製品、石製品（鏡鑑・腰帯具）など官衙関連の遺物が豊富である。特に自然流路内から出土した木簡の中には、「己丑年」「天平勝寶二年」等年紀を示すもの、「麻植評」のように行政区分の分かるものの他、「勘籍木簡」や「難波津木簡」等が多数出土しており、阿波国府の存続期間のみならず、その成立や当時の地方行政の実態を知る上できわめて重要な資料である。

上記2件の指定により、

徳島県指定無形民俗文化財は13件、

徳島県指定有形文化財（考古資料）は16件、

徳島県指定文化財の合計は331件となる。